市民のひろば

まちの声

◆**まんが甲子園に出場して**

8月に行われた『第18回まんが甲子園』の予選に応募しました。

今年の予選テーマは『特効薬』と『プロフェッショナル』でした。

山田高校マンガ部では、プロフェッショナルをテーマとしました。

今年は残念ながら本選出場はなりませんでしたが、**アイシー賞**をいただくことができました。これを励みに来年に向けて頑張っていきますので『神氏ちゃん』の応援もよろしくお願いします。

（山田高校マンガ部）

あたしが直してやるよ!!

新型インフルエンザが…

消滅しました!!

山田高校まんが甲子園応募作品

何でも叩いて直すプロフェッショナルな母がテレビを叩いて直すと同時に、新型インフルエンザも消滅してしまいます。そのプロの技に家族は「今度は自分が叩かれる…」と恐れている絵です。

用語説明

アイシー賞

まんが甲子園応募作品３０２校（本戦に出場した３０校をのぞく）の中から１０校に贈られる賞。アイシーは、まんが甲子園の協力会社である、漫画用の画材を取り扱うアイシー株式会社に由来。

◆**小さな灯火**

ある病院の早朝の待合室、人影は受付にちらほら。

車椅子の女性が朝日の差し込む東向きの玄関まで向かってゆき、口と手でソックスを履こうとしている。

「手伝いましょうか?」と、静かに後ろから声をかけた私に、首を横に振ったのは恥じらい?それとも、それほどのことでもないよ・・という意味なのかな。

私は長いすに戻り、腕を組んで、伸ばした足元を見つめて固まっていた。

やがて履き終えた女性はエレベーターへと去り際、肩越しにヒラヒラと自由な左手を振った。

「ありがとう、貴方の心はいただきました」とその手は語っているようで、心の隅の小さな灯火はポッと明るさを増した。

（光）

編集後記

7～8月に香美市の三大夏祭りが開催されました。昨年まで踊り子で参加していた土佐山田まつりの取材は、汗を流しながらも「踊る方がきつかったかな」と思いました。また、久しぶりのカラーページのレイアウトに「ああしようか、こうしようか」と苦戦したもののなんとか期限に間に合いました。巻頭カラーページぜひ見てください。

（細木）

まちの声・まちの風景募集

住所・氏名・年齢・電話番号（または連絡方法）を明記して香美市広報委員会まで、ご投稿ください。なお、誌面の都合で掲載できない場合があります。

・『まちの声』の字数は400字以内（最低字数制限はありません）。趣旨を変えない範囲で直すことがあります。
・『まちの風景』は、写真でもイラストでも構いません。コメントを添えて送ってください。

香美史探訪記

第５回　高照寺護摩堂と大庄屋

香北町朴ノ木

国道１９５号線を美良布から２kmほど上流の物部川北岸にある河岸段丘上の集落が「朴ノ木」である。集落の東方には高照寺のお堂が見える。

高照寺正門から左手に千躰地蔵尊を祭る本堂がある。この本尊は、永徳３年（１３８３）８月１９日、韮生郷領主であった楠目城山田氏の帰依を得て、山田大中臣道寵によって奉納されたことが、厨子の銘板に見ることができる。当時は、室町幕府南北朝の時代で、現在の寺地に「理清院」という大寺があり、壮麗を極め、郷内屈指の寺として教化にあたっていたと伝えられている。江戸時代初期の寛文年間（１６６１～１６７２）に北方にあった長福寺を現在地に移転し、享保５年（１７２０）「高照寺」と改称した。

享保１７～１８年、西日本には大飢饉（享保の大飢饉）が発生、伊予国（愛媛県）を中心に約９７万人が困窮し、餓死者７千余と言われる。１７年は、前年の冬以来、天候不順で、春の長雨が麦の凶作を招き、秋のウンカの大発生で米作も大打撃を受けた。特に韮生郷５０余村は深刻だったらしく、朴ノ木大庄屋に救済を申し出る者がおびただしく、捨て置くこともできない者は、長浜の藩のお助け小屋に送った。途中の宇津野峠では、長浜へ行く者が折り重なって倒れていたと言われている。当時の当主は、第６代成矢彦之丞正栄が片地村から入っており、香北町史には１６年落役とあるが、山田影山の墓碑では、享保１２年３月に死去とあるので、第７代成矢彦之丞は、同時に世襲したものであろう。この大庄屋は、大変な努力をしたと思われるが、報われなかったようである。

この飢饉は、山間部の被害が大きかったようで、韮生郷の窮民は、山田や香南の山野にユリ根、葛根、シレイ根、蕨根、榎の皮をはいで麦に加えて飢えをしのいだというから、困窮の度が知れる。その後は回復に向ったが、飢饉で生死の間をさまよった者の精神的打撃は大きかったようで、元文２年（１７３７）、高照寺に普賢菩薩木像が置かれた。この菩薩を前に、護摩堂の炉で御札を焚き、悪業を焼き尽くし願いが成就される祈祷が行われ、民衆の精神的な救済をしたようである。

高照寺護摩堂

こうした努力も報われず、第７代成矢彦之丞は、元文５年大坂へ追放となり、寛保３年（１７４３）１１月に死去した。第６代成矢彦之丞も死後８０年を経た文化４年（１８０７）、１００年前の宝永４年（１７０７）の「バクチの打ち負けが発覚した」として、大坂へ追放に処せられた。藩は、２代の大庄屋に飢饉の責任を取らせたとも考えられる。

（香美史談会）

ただいま留学中㉘

ゴンザロ　ガルセス　ディアズムニオ（スペイン・バレンシア市）

香美市の皆さん、こんにちは！バレンシア工科大学から高知工科大学への留学生で、専門は計算機工学です。今年の４月に日本へ来ました。

この文を書いている今、私は工科大のよさこいチームで練習をしています。ほとんど毎日です。演舞は難しいですが、とても楽しいです。山田まつりで踊ることを楽しみにしています。

バレンシアの一番有名な祭りは３月に開かれる、「Fallas（ファリアス）」と言う火祭りです。一年かけて、それぞれの町内会は募金を集めて、祭りを準備します。その間、「ファリアスの芸術家」と呼ばれる匠は木と張りぼてで明るくて、色とりどりの大きい人形を約４百体作ります。人形によってテーマが違い、一番大きい人形は高さ約30㍍で、1億円以上かかります。

３月15日に街中の道に人形を立てます。町の交通はほとんど止まり、みんな歩いて人形を見に行きます。観光客も多く来ます（100万人ぐらい）。15日から19日まで毎晩川辺で花火を打ち上げます。18日の晩の花火は一年で一番盛大です。今年の花火は爆薬５千kgを使って、約25分続きました。最後は、３月19日の晩みんな人形の周りに集まって、人形を全部燃やします。このようにして春の訪れを祝います。

バレンシアは首都マドリッドからも、バルセロナからも電車で３時間ぐらいです。チャンスを作って、ぜひバレンシアへ遊びにきてください！